

五バツ



2021 夏季号 137

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ



<http://voluran.com/>

目 次

2021年 夏季号 137

| | | |
|---------------------------|--------------|--------|
| 巻頭言 ヤナギ類のこと 齊藤新一郎著を、読んで…… | 会長 春日 順雄 | …1-2 |
| 令和3年度 総会議事録 | 事務局 | …3 |
| 研修部からのお知らせ 今年度の野外研修会 | 研修部 | …4 |
| 特別寄稿 惜別 佐々木幸夫氏 | 会長 春日 順雄 | …5 |
| 寄稿 「春の花を見つけよう」観察会の感想 | 札幌市清田区 鈴木 修 | …6 |
| 投稿 セイタカアワダチソウはどこへ? | 札幌市清田区 堀川 勉 | …7 |
| 早春の高丘森林公園 | 苫小牧市 谷口勇五郎 | …8 |
| エゾシカの樹木食害・角擦り観察 | 千歳市 西川 惟和 | …9-13 |
| 都会(札幌)のキノコたち | 札幌市東区 松原 健一 | …14-17 |
| 新装オープン 西岡公園 | 札幌市南区 宮津 京子 | …18 |
| 厚岸・道立が 3.30付けで国定公園に | 札幌市厚別区 藤吉 功 | …19 |
| 話題提供 花粉症の話し | 江別市 藤田 潔 | …20-24 |
| 話題提供 花柳 なんと読む? | 江別市 藤田 潔 | …25-26 |
| 自然観察NOW No.54 エゾサンショウウオ | 江別市 成瀬 司 | …27-28 |
| 自然観察NOW No.55 「配置替」の植物たち | 札幌市清田区 堀川 勉 | …29-30 |
| 自然観察NOW No.56 スミレ | 札幌市清田区 春日 順雄 | …31-32 |
| 事務局だより、編集後記 | 事務局・編集部 | …裏見返 |
| 奥付 | | …裏表紙 |

2021夏「エゾマツ」137号／表紙の写真説明

札幌市厚別区 藤吉 功



この季節、森歩きで楽しみな“花々”のスナップです。

写真左上から時計回りに、①モクレン科キタコブシ。名曲・北国の春のメロディーに、足取りも軽やか。カラマツの花も捨てがたいが、紙面の都合で涙。②ユリ科マイヅルソウ。金平平糖のようですね。③メギ科サンカヨウ。山地の木陰に見られます。④リンドウ科フデリンドウ。花の形を筆にみたてたもの。日差しが陰ると花を閉じ、まさに細筆で、全く目立ちません。

⑤キンポウゲ科エゾノリュウキンカ。通称:ヤチブキ。希に、八重咲きの個体も。野幌の森では、2020初夏、あえなく盗掘に。⑥サトイモ科ミズバショウ。名曲・夏の思い出のヒットで尾瀬から全国区の人気に。

「ヤナギ類～その見分け方と使い方」齊藤新一郎著を、読んで 会長 春日 順雄

1, ヤナギ類を敬遠している自分

「ヤナギ属では、種間雑種が生じやすく、似たような細長い葉であるから、しかも、花と成葉とが同時に見られないので、同定がしばしば困難になりやすく、植物学者でも、ヤナギ類の同定を嫌がる傾向にある」(p2から引用)さらに、「分類の基準が花にあり、第1に雄花の腺体(蜜腺)の数、第2に雄しべの数、次いで、花柱の長さ、花穂の長さ、低木・高木という生活形、などがあって、いつでもかんさつできる葉および一年生枝・冬芽が、分離基準としてのランクがきわめて低いからである。」(p35から引用)これらの文はヤナギへの苦手意識を大きくしてしまいました。

しかし、ヤナギとの出会いは子どもの頃から豊富であった私であります。

2, ヤナギ類との出会い ネコヤナギの思い出

ヤナギ属は春先、尾状花序をつけます。これをネコと呼びます。英語ではキャットキンと言います。春先のヤナギ属はみんなネコヤナギだ。

子どもの頃、ネコヤナギを採ってきて部屋に飾って喜ばれたことを思い出します。採ってくるのは決まってエゾノバッコヤナギ。尾状花序が大きくて、白さが一段と映えることを子どもながらに知っていました。**エゾノバッコヤナギとバッコヤナギ**

バッコヤナギは、南方系の種であり、石狩低地帯を北限として、北海道の西南部、本州(近畿以東)に分布する。北方系のエゾノバッコヤナギとの区別が、枝の隆起線条だけでは、かなり難しい。また、葉でも区別しにくい。それゆえ、両者の分布の境

界が、あまり明白でない(筆者は便宜的に、石狩低地帯の西側のものをバッコヤナギ、東側のものをエゾノバッコヤナギとしている。(p81から引用)

七夕の思い出

七夕飾りは、ヤナギに短冊や飾りをつけた。小学校高学年の頃かな、ヤナギ採りは私の役割。気に入ったヤナギを探します。枝ぶり、葉の緑の濃さ、葉の幅の細さ加減など、子どもながらにこだわりを持っていました。今にして思うのですが、あれはエゾノカワヤナギだったと思うのです。

ドロヤナギの思い出

平岡公園の南側入り口にドロヤナギの街路樹がありました。春先、ドロヤナギの花穂の写真を撮ろうと出かけました。切り株が残っていました。昨年、地域住民の苦情で切り倒したというのです。晩春から初夏にかけて、種子は綿毛のような種髪に載って旅立ちます。ポプラ属は、これを楊絮(ヨウジョ)と言います。ヤナギ属は柳絮(リュウジョ)と言います。楊絮が飛び交う頃、近くの住民は窓を開けておかれぬ、網戸に白い綿毛がびっしりとつくというのです。挿し木で増やすことが出来ますから、雄の木だけを街路樹に使うとこんなことにならなかったのにな。

ヤマナラシの思い出

滝野青少年山の家に通っていたときのことです。晩秋の園路を歩いていました。カラカラという賑やかな音が聞こえます。弱い風なのに木の葉がヒラヒラと揺れていきます。秋の恠しい園路で聞く音は、まさしく

ヤマナラシだと思いました。森に活気と楽しさをもたらしてくれました。

ケショウヤナギの思い出



<戸鳶別川の河畔林>

念願のケショウヤナギとの出会いは2013年6月2日。十勝支部の皆さんの案内で戸鳶別川河畔林を訪れました。川に一番近いケショウヤナギは水が浸ったところにありました。春の増水期は、このあたりは一面水浸しであろう。河畔林を形作るケショウやなぎなど、ヤナギ属イッパイの景色でした。

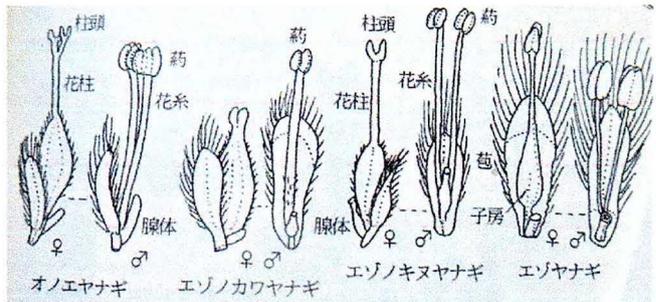
ヤナギの種子は無胚乳、種子の皮は薄く乾燥に弱い。寿命は3~5日ぐらい。種子散布は晩春から初夏。発芽は、この時期スタート。秋には数センチ、成長の早い種は数メートルにもなると言います。大洪水で礫の広がる氾濫原はヤナギ属種子の絶好の着地点。ライバルが進出する前の氾濫原です。翌春、ケヤマハンノキ、ハルニレなどの春散布の種子があってもヤナギ属のライバルにはなれません。その後、耐陰性のあるハルニレなどの新人があり景観は遷移していきます。(p16~21 要旨)

「花時には、新緑、黄色い花穂、紅色の枝、白粉の小枝との対比が大変美しい。」(p50) 他書では「小枝は繊細で晩秋から冬にかけて美しい紅色を帯びる」とケショウヤナギの美しさの記述があります。残念ながら、白粉の小枝は見られましたが、もっとも美しいケショウヤナギとの出会いは実現していません。

帰途、ケショウヤナギの枝を採取しました。ヤナギ属は挿し木が出来るからの思い込みでした。発根しませんでした。ケショウヤナギは挿し木の出来ないヤナギでした。

3, ヤナギ類への挑戦

平岡公園に行きました。手の届かない高さに雄花が咲いています。おそらく、花粉の色やネコの大きさからエゾヤナギだろうと思うのですが、科学的な観察の仕方ではありません。この日は、エゾノバッコヤナギとイヌコリヤナギを確認しましたが体験的な把握の仕方です。



この図は、p17「ヤナギ類の花の形態と各部分の用語(諸文献から変写:縮尺は不同)」から野幌森林公園分布部分を引用したものです。

ヤナギ類の同定は花なんです。観察はむしろがねレベルです。

花びらのない花です。開花時期をどう把握したらいいのかな。「分類の基準が花にあり、第1に雄花の腺体(蜜腺)の数、第2に雄しべの数、次いで、花柱の長さ、花穂の長さ」(p35から引用)ヤナギ類の蜜腺の観察、雄しべの数の観察、花柱の長さの観察など、すべてが初めての体験です。

今年はヤナギ類の花の観察の大切さに気づいた年です。

観察体験を積み上げて同定の体験を蓄積しなくては。そう思いました。先立つ文献研究も必要だ。

課題に気づいた春でした。

令和3年度

北海道ボランティア・レンジャー協議会総会議事録

- 1, 総会中止 コロナウイルス感染拡大による。
- 2, 次の方法で会員の意思を確かめ、総会に代わるものとした。
- 3, 郵送したもの
 - (1) 第36回定期総会議案書
 - (2) 返信用ハガキ
- 4, 総会成立の資格確認
ボラレン会員 108名 はがきによる委任状78名 (内1名未記名)
委任状による総会は成立しました。
- 5, 承認事項は次の通り
 - (1) 1号議案
 - ① 2020年度事業報告
 - ② 2020年度決算報告並びに監査報告
 - (2) 2号議案
 - ① 2021年度事業計画
 - ② 2021年度収支予算案

◆一言欄記入は25名。

※1, ほとんどがボラレン執行部の苦勞に対する感謝の言葉です。

※2, 次のような貴重な意見がありました

- ① 育成研修会の地方での開催がされなくなって久しい。地方会員の高齢化は深刻であり、支部の維持と結成は絶望的です。何らかの工夫をしないと札幌以外は崩壊すると思います。
- ② 2021年度の年度決算で306千円の繰越金が見込まれる。一度、会費の減額を検討ください。単年度で結構。
★役員会で検討し、後日、説明をします。(文責：会長)

以上、この議事録が正確であることを証するため、ボラレン三役部長は下記に記名捺印します。

令和3年4月30日

会 長 春日 順 推 

副会長 小林 英 世 

事務局長 富山 康 夫 

研修部長 阿部 徹 

広報部長 三井 茂 

編集部長 富山 康 夫 

【研修部からのお知らせ・今年度の野外研修会】

去年の研修部主催の会員研修会（野外・講演会等）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で9月のきのこ研修会以外は全て中止となりました。今年は、更に感染力の強いイギリス型変異株のコロナウイルスが全国的に大流行して、いつ収束するのかの見通しが立ちません。このような状況下で野外研修会を外部講師に依頼すると、いつまた急な感染拡大で中止なるかもしれず対応に苦慮します。そこで今年の野外研修会は、高齢者のワクチン接種が終了する秋に予定し、外部講師ではなく会員同士の学び合いの場としました。以下、9月開催予定のきのこ研修会と平岡公園観察会の概要をお知らせします。多くの会員の皆様のご参加をお願いします。

◎きのこ研修会について

今年も道民の森に詳しい会員の松原健一氏の案内役で、森を歩きながらきのこを採集し、その後きのこの解説をしていただきます。様々な種類のきのこについて学ぶことができます。

1. 日時 9月15日（水）、10:00～12:30 小雨実施
2. 場所 当別町道民の森（月形地区）
3. 集合場所 陶芸館前（月形地区案内所 TEL 0126-53-2355）
4. 講師 松原健一氏（ボラレン会員）
5. 持ち物 各自マスク着用、消毒液持参、きのこ図鑑、筆記用具、水筒、その他
6. 昼食 みんなでの会食はなしで終了（昼食持参は各自自由）
⇒今年も感染リスクを減らすために会食はなしとしました。
7. 申し込み・問い合わせ
*研修部 阿部 徹（TEL・FAX 001-382-5811）
E-mail fncqb127@ybb.ne.jp
*申し込み締切日 9月5日（日）までに、担当の阿部にご連絡下さい。

◎平岡公園観察会について

今までボラレンで観察会を実施したことのない札幌市内の公園です。春の梅林が有名ですがコナラの広葉樹林や秋の野草、人口湿原と様々な環境の植物観察ができます。

1. 日時 9月19日（日）、10:00～12:00 小雨実施
⇒観察会終了後は自由解散とします。
2. 場所 札幌市清田区平岡公園
3. 集合場所 平岡公園第一駐車場（厚別中央通沿い）
<平岡公園管理事務所 TEL 011-881-7924>
4. 交通機関 ①地下鉄東西線新札幌駅発・中央バス「新111線」乗車
→平岡6条4丁目下車、徒歩5分
②地下鉄東西線大谷地駅発・中央バス「大66,67線」乗車
→平岡5条6丁目下車、徒歩5分
5. 園内案内 ボラレン研修部員
6. 持ち物 各自マスク着用、消毒液持参、筆記用具、水筒、その他
7. 昼食 昼食と敷物の持参は各自自由。集まっでの会食はしません。
8. 申し込み・問い合わせ
*当日参加も自由なので、事前申し込みは必要ありません。
*問い合わせは、研修部担当の阿部徹まで（TEL・FAX 001-382-5811）
E-mail fncqb127@ybb.ne.jp

惜別

佐々木幸夫氏

ボラレン活動に大きな貢献をされた佐々木幸夫氏が、2月17日ご逝去されました。享年、89歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

佐々木幸夫氏は育成研修会4期の修了生です。平成元年旭岳温泉町営ホテルえぞ松で開催、当時の会長河村千束氏の誘いでボラレンに加入しました。(エゾマツ20号、佐々木氏の原稿による)平成2年から平成4年まで広報部長。平成4年から平成9年まで副会長。平成6年から平成9年まで事務局長。この間、平成4年は副会長と広報部長兼務、平成6年から平成9年は副会長と事務局長兼務でした。ボラレン加入の翌年からボラレン組織の要職兼務で活動牽引の任に当たってこられました。精力的に多忙で献身的な会務遂行に当たってこられました。特筆すべきは、ボラレン発足10周年当時の事務局長であったことです。10周年記念事業として「野幌森林公園自然観察ガイドブック」を発刊しています。その執筆者として、事業の牽引者として力を発揮なさいました。

エゾマツ20号に佐々木氏は次のように述懐しておられます。「私は植物のことに詳しいわけではない。4月から毎日のように野幌森林公園に行くつもりだ。」ボラレン活動に於ける佐々木氏は存在感があったな。その存在感のみなもとは、たゆみない自学の姿にあったのです。

植物のことがとっても詳しくて、自然観察の案内人として独り立ちするまで、私は勿論のこと、多くの会員がお世話になりました。知識欲旺盛で野幌森林公園のシダ植物の学習のきっかけを作ったのは佐々木さんでした。行動力も旺盛で、支笏湖パークボランティアとして活躍、北海道立林業試験場のフォレストガイド養成講座修了生による光珠内の会のお世話役としても活躍しておられました。そして、その人柄に惹かれたファンもおられます。

ボラレンが今日あることに多大な貢献を賜りました。有り難うございます。佐々木幸夫氏のご冥福をお祈り申し上げます。

ボラレン会長：春日 順雄 記



「春の花を見つけよう」観察会に参加して

札幌市清田区 鈴木 修

初めて野幌森林公園の観察会に参加させていただきました。

コロナ禍の元、感染対策も考慮され3人グループでの出発でした。

冒頭に説明員の方から春の観察会は胆振東部地震、緊急事態宣言で、三年ぶり開催で一時間のショートバージョンですが一緒に楽しみましょうと挨拶あり早速スタートしました。

最初はバッコヤナギとアキタブキ、春紅葉の桂、これらは雌雄別の植物との説明で美醜や生命力についてセクハラになるかなと言いながらも、笑いを誘って頂き一気にリラックスすることができました。

私はスプリングエフェメラルが好きで少し栽培もしているので、今日の一番の目的は山野草です。

実際に見られたのは、福寿草・エンレイソウ・エゾエンゴサク・ヒメイチゲ等などでした、解説員の方がエンゴサクの花が増えていると嬉しそうに言ってとおり、散策路の両側に可憐な青い花が咲き乱れていました。

中でも一株真っ白な花を咲かせていたのには感激でした。

個体差で色の幅が大きいのは知っていましたが、純白には本当にビックリで、今日一番の感動をもらいました。



セイタカアワダチソウはどこへ？

札幌市清田区 堀川 勉

いきなりの質問ですが、セイタカアワダチソウと聞いて、女優の十朱幸代さんを思い浮かべる人はいるでしょうか？ この外来種が広く知られ始めた頃の1977年（昭和52年）に発売された曲が、ずばり「セイタカアワダチ草」です。ファンだった女優の数少ない歌なので、曲名だけは脳裏にしかと刻み込まれています。

最近の話題と言えれば昨年、芥川賞を受賞した古川真人さんの小説「背高泡立草」でしょう。題名になった花のことは、どこにでも生える雑草として最後の方にちょっと出て来るだけです。作中人物がウェブサイトで見たいセイタカアワダチソウを調べると、学名が二つあるらしく、両方に共通するソリダゴってどんな意味だろうと、不思議がる十数行の場面です。

二つの学名に関して、ウィキペディアに解説がありました。一つ目の「ソリダゴ（アキノキリンソウ属）カナデンシス」は実は、複数の種を一まとめにした種複合体だということです。もう一つの学名「ソリダゴ アルティシマ」の方が、複合体の一つのセイタカアワダチソウであろうと説明しています。

何だか頭がこんがらがってきました。何より、種複合体なる言葉がよく理解できません。さらに悩ましいのは、セイタカアワダチソウが道内にほとんど存在しないとする最近の説です。

植物写真家の梅沢俊さんは、北海道新聞・さっぽろ10区版「うめしゅんのさっぽろ花の観察ノート」（昨年10月16日付）で、次のように書いています。オオアワダチソウに次いでケカナダアキノキリンソウが10月まで咲き続くと紹介した上で「有名なセイタカアワダチソウは、道内ではごくまれにしか見られないことが最近、判明しました」と明言しています。

藤田潔さんが3月の話題提供「花粉症の話」で触れていますが、昨年3月発行の「北方山草」第37号で北方山草会の五十嵐博さんが既に、今までセイタカアワダチソウと信じていたものはケカナダアキノキリンソウと考えられると結論付け、調査報告を載せています。両者の見分け方について、ケカナダアキノキリンソウは開花が早く草丈が低いという違いのほか、頭花総苞の短さが決め手になるとして実測数値を示しています。

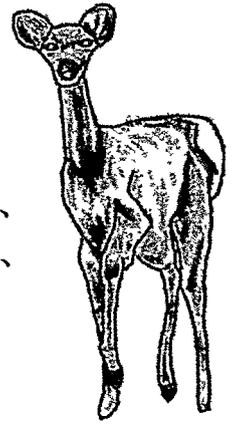
では、ごく身近だった草花なのになぜ、長年疑問も出ずに思い込みが続いたのでしょうか？ セイタカアワダチソウが、突然登場と言った感じの「新顔」に置き換わってしまうのでしょうか？ 図鑑などでケカナダアキノキリンソウの紹介例はほとんどなく、比較対照の相手としては情報が少なすぎる気がします。総苞の長短と言われても、現場での見極めは簡単ではなさそうです。すんなりと納得できるような形で整理されることを願ってやみません。



↑↓これケカナダアキノキリンソウ？



4月3日、某会の観察会がありました。曇りで1時間後辺りから霧雨が降り出しました。展望台の駐車場から出発しました。「あれはアサダだよ。樹皮が縦に剥がれるような感じ、葉っぱがない時期だから、樹皮を見るのです」と誰かが説明しました。「これがその葉っぱだよ」と狭い卵形の枯れ葉を拾いました。この辺りは殆どがミズナラでたまにサワシバやケヤマハンノキなどで、アサダはその1本だけでした。樹皮はカツラにも少し似ています。少し進むと、「これはハリギリだよ」と誰か。樹皮は黒っぽく、深く縦に裂け、枝先がごつごつしています。立ち木に赤いテープをまいたものが方々にあります。伐採予定で林に光りを入れるためなそうです。道路を渡り丘陵広場の方に登って行きました。窪んだ山道には枯れ葉が積もっています。フキノトウが幾つか咲いていました。「これは雄花だね、黄色で星形が見えるでしょう」。別の人「地下茎でつながっているんだよ、見えるのは皆、雄花でしょう」。ヤナギが咲いていました。「ネコか」「ネコヤナギはこの辺にはないそうだよ」「バッコじゃないか」「うん、バッコヤナギだね、黄色いのは葯だから雄花だよ」など一頻り、盛り上がり、写真を撮る人もいました。花芽がたくさんついているキタコブシや昨年の果実を付けているハウノキがあります。ノリウツギには昨年の花柄が残っています。コシアブラがあつたら教えて欲しいという人がいました。「めったにないよ」と言い、途中で気がつきませんでした。枯れ葉がたくさんついた高さ5mぐらいの木がありました。枯れ葉は倒卵形で長さ5cm 細鋸歯縁です。枝ぶりからワタゲカマツカかと思いました。林道筋にアカマツが数本植わっています。本州からの開拓者が郷里をしのぶ望郷樹として植えたものだそうです。スギを植えているところもあるとか。仲間の2人の女性がゴミ拾いをしていました。ポリ袋のようなプラスチック製品です。誰かに頼まれたわけでもなくよい心がけです。展望台近くの広場に戻ってきました。シラカンバ・ダケカンバ・トチノキ・キハダ・イチイなど様々な樹木が植わっています。ある樹木の下に来た時、誰かが微妙な変化に気づきました。曇り空を背景に黒紫色の小さな固まりが沢山ついています。さすが自然に興味のある人々と思いました。ハルニレが咲きかけていたのです。展望台から市街地の見える遊歩道を歩いて行くと、下の林にシカが2頭います。角はありません。双眼鏡を持っていれば、雄なら角の落ちた跡が見えるはずですが、色が黒っぽいので雄かということになりました。まもなくそのすぐ近くに雌が5~6頭いました。色が薄く灰色です。少し小さいものは子ジカでしょう。どちらも冬毛でした。2日後、晴れ間があつたので、写真を撮りに出かけました。ハルニレはちょうど黒紫色の葯と赤紫色の花糸の咲きだしたばかりの様子で、花の小さな塊がたくさん見られます。図鑑では4~5月、葉より先に開花とあります。そこから50mぐらい離れた崖のそばの木に、15mぐらいの高さにヤドリギが1個ついています。この開花も春先だったと思ひだし、望遠鏡で見ながら注視するとどうやら花らしいものが見えます。雌雄異株で図鑑によると、黄色で径4~6mm、5月に開花とあります。撮った写真を見ると枝分かれの部分に数個、薄い黄色、花冠は4で、雌花のようでした。錦大沼公園の小沼の遊歩道そばに10mぐらいの高さにあるものも、同じ形でした。近所のエゾムラサキツツジが咲き始めていました。山にはヒナスミレやファイリミヤマスミレが咲き出していました。



エゾシカの樹木食害・角擦り観察について

千歳市 西川 惟和



はじめに

数年前からよくシカを見かけるようになり、近年一段と増えてきたように思われる。また周囲の樹木に沢山の食痕がみられるようになりました。私が現在の団地に住み着いたころは鹿を見かけることはほとんどありませんでした。

シカについての食害などの調査は行政などでなされておりますが、ぼけ老人の感覚で観察した結果を推測と憶測を交えて述べてみたいと思います。

エゾシカは北海道のみに生息するニホンシカの亜種で雄は、体長190cm、体重150kgにもなる国内最大の草食動物です。明治初期の大雪と乱獲により一時は絶滅寸前までに生息数が減少しましたが禁猟などの保護政策を行うことにより、個体群を維持するまでに生息数が回復しました。エゾシカの持つ高い繁殖力と生息環境の変化に、現在は急速に分布域を拡大しながら生息数を増やしています。

その結果農林業被害や交通事故の増加など、人間社会への影響や強度の採食や踏付けによる生態系への影響など深刻な問題となっています。北海道では人とエゾシカの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に居するため、平成26年3

月に制定した「北海道エゾシカ対策推進条例」に基づき、捕獲等による個体数の管理や、捕獲個体の有効活用推進など総合的かつ計画的にエゾシカ対策を進めています。北海道環境生活部自然環境課エゾシカ対策係資料平成30年度エゾシカの推定生息数等についてによると、南部地域を除き66万頭、東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室）31万頭、西部地域（空知、石狩、胆振、日高、上川、留萌、宗谷）35万頭、南部地域（後志、渡島、桧山）13万頭捕獲状況（全道）11.2万頭農林業被害額（全道）約39億

平成23年度77万頭からすれば減少していますが、私が住んでいる団地周辺においては増加しているように思われます。減少しているとすれば生息場所の環境の変化により移動してきたものなのか、空港周辺の山林、原野などは驚くほど開発され、駐車場、太陽光発電（自然エネルギー）用ソーラーパネルが設置されてきており、太陽光発電設備は空港周辺ばかりでなく、いたるところに増えてきています。これらから察すると生息数は減少したが、密集度が高まったことによるものか。

まず驚いたのが昨年あたりから自宅のムスカリを食べていること、また今年は幅11m道路を挟んで2kmほど両脇の緑地帯にツリバナが植えられているが山側に面した所は数多くの食痕が見られます。

森林の中はどうなっているのか、近くの国有林の林道筋の食害などについて観察した。ここは近くの住民の自然好きな人の散歩道にもなっており、（クマ注意看板などもあり人は少ない）また意外と動

植物も豊かでまじかに観察でき、ぼけ老人のお気に入りの散歩道でもあります。

この国有林は南は苫小牧、白老、西は伊達、北は札幌、恵庭につながり、また団地は職住近接型を目的に山林を造成してできたところであるため、シカや熊が出てきても何も不思議ではなく、むしろ出てきて当たり前の場所であると、ぼけ老人は思うのである。食害の観察は散歩がてらに4月雪解け後に実施しました。



お気に入りの散歩道（夏）



（秋）



ヒグマ注意看板



ときどき出逢うキタキツネ（コンタ）



ヤマウルシ食痕



ミズナラ食痕



ノリウツギ食痕



ケヤマハンノキ角擦り痕



トドマツ角擦り時についたシカの毛



ツリバナを食べに来たシカの足跡



ツリバナ (左) ヤマウルシ (右) 食痕



アオダモ食痕



ハルニレ食痕



緑地帯ツリバナ食痕

2020年7月4日支笏湖地区パークボランティア研修で特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 研究員 早稲田宏一氏によるヒグマとエゾシカについての講演があり、その中で移動や行動特性等詳しい説明がなされた。早稲田氏はハンターもやられており姉崎氏とも交流があったとのこと、姉崎氏は(クマにあったらどうするか・アイヌ民族最後の狩人姉崎等 姉崎等(語りて)片山龍峯(聞きて)ちくま文庫から出版)でどうゆう人かは本の内容から推測しており、実学的な講演内容は、ボケ老人もエゾシカの食害観察のまとめ中で、エゾシカの行動特性(定着型と季節移動型)や嗜好特性としてミヤコザサ、クマイザサ、ハルニレ、ツリバナなど話が聞けたことはラッキーであった。講演が終わった後思い出したのが嫌いな植物は何かを質問しなかったこと、やはりボケ老人である。嫌いな植物はある程度頭の中に感じ取っており、ネット検索すれば出てくるなど思っていたところ、8月2日環境省支笏洞爺国立公園パークボランティアの観察会のおり、洞爺管理事務所の職員の方が参加され、雑談中洞爺湖の中島のシカについてお聞きしたところ実際にシカの調査もなされたとのことで、中島のシカが食べなかつ

た植物をお聞きしたところ、ハイイヌガヤ、フッキソウ、ハンゴンソウ、フタリシズカ、ミミコウモリ、アメリカオニアザミとのことであった。ふる里で飼育していた牛馬は原野の放牧地等においてはクララ、馬酔木、ワラビ、アザミなどは食せず、またキツネノボタン、セリなども喰わなかった。家畜である牛馬においても、野生の草食動物同様毒草や臭いのあるものなど、本能的に喰わないものと思われる。

観察した樹木の中で一番食痕の多かったものはヤマウルシで次にノリウツギであった。なぜヤマウルシとノリウツギが多いのかぼけ老人は考えた。

ノリウツギは皆さんご存知の通りサビタとも言われ観察会では和紙を漉く時の糊として使用したなどの説明をしますが、樹皮の内皮に含まれるヌルヌルとした成分“糊”（ねり）はカラクチュル酸などたくさんの多糖類を含んでおり、これがコウゾウ、ミツマタ、ガンビなどの和紙の原料となる繊維を分散させ沈殿を防止し、また漉き上げて重なった紙と紙が一枚づつ容易に分離する効果もあり和紙を漉くときの“ねり”として使用されたとのこと、ぼけ老人も早速、枝の表皮を剥ぐとヌルヌルとしており齧ってみると意外と人間も食べそうなので、シカとしては冬の栄養補給とを兼ねたごちそうかも知れないとぼけ老人は思うのである。次に一番食痕が多かったヤマウルシであるが、ヤマウルシは観察会のとき、ツタウルシ同様注意を要する植物の一つである。

シカはウルシオールなどのかぶれ成分に耐性を持っているのだろうか。ヤマウルシが生えている周囲には採食できる他

の植物もあるのになぜヤマウルシなのか、ウルシオールにかぶれたシカが馬面のようにになっているのを想像し、これが馬鹿になったのかとぼけ老人は思ったりもするのである。

ヤマウルシについて調べていくうち、ウルシの薬用効果で「生漆、乾漆」という漢方薬の効用の一つに駆虫とあり寄生虫による腹痛など寄生虫症に用いられるとのこと、“これだと”ぼけ老人の頭の中に蠟燭が燈ったのである。（漆の実は絞って蠟燭にしたとのこと、これは関係ありません）老人の少年時代は腹の中は寄生虫だらけで、よく虫下しを飲まされたものである。シカもたくさんの寄生虫を宿しており寄生虫による感染症などにより相当数のシカが淘汰されていると思われる。シカはこの駆虫効果を知っていて食しているのであろうかとボケ老人は思うのである。ウルシは縄文時代から塗料や接着剤として使用され、また抗菌作用もありコロナ対策としての研究をしている人もあるそうでウルシは凄いのである。

ツリバナについては樹林内ではヤマウルシのそばの一か所しか確認できなかった。ツリバナについては種子を包む橙赤色の仮種皮にはアルカロイド成分を含み誤って口にすると少量でも嘔吐や下痢をすること、緑地帯を含め果実を採食した形跡は確認できなかった。また緑地帯のツリバナは車道、歩道ともに除雪が行き届いており、採食環境は良好でツリバナの幹は平滑で齧りやすいのかとも思われる。

角擦りは、生え変わった袋角の外皮を剥す為繁殖期前の8月下旬から10月に

かけて行うとのこと、観察場所においてはトドマツに多くの痕跡が見受けられ、またケヤマハンノキにも見られた。面白いことに直径13cmほどの若木ばかりであり、この角擦りの痕跡は写真で見る樹皮が剥がれたような大きいものでなく小さいのである。これは採食のための角擦りではないのか痕跡のある樹木の下を確認したが体毛は幹に付着していたが角の表皮を確認することはできなかった。落ちていても昆虫などに食べられなくなってしまったのかも知れない。

林野庁の森林における鳥獣被害対策のためのガイド「森林管理技術者のためのシカ対策の手引き平成24年3月版」によるとシカの好む環境として、シカは食物となる下層植物が豊富にある伐採地や姿を隠せる樹林が混在するモザイク的な森林環境を好み、またシカは平坦地を好みます。古い時代は山の中よりも平野に数多く生息していたが、人が平野を使い尽くしてシカは山の中に生き残ることになりました。とくに尾根沿いの平坦地や陽当たりの良い緩斜面を好みます。との記述があり、おなじシカの仲間であるトナカイについて調べてみると、まず生育環境が北極圏周辺で半家畜化された動物で人為的な分布も多いそうで、またシカ科で唯一雌雄ともに角があり、雄は春に角が生え秋から冬にかけて抜け落ち、雌は冬に角を残し春から夏にかけて抜け落ちる。雌の角があるのは冬の子育て摂食に関係があり、蹄もシカと違い大きく積雪を歩くのに適している。

シカはもともと生息環境が平野部であり、蹄も細く冬の積雪特に山林などは弱

いのである。冬山・残雪が残る春山登山をなさった方はお分かりかと思いますが、カンジキを付けては歩けますがツボ足だと歩けません。カンジキの雪の下は倒木やブッシュが一杯で、ましてやシカの細い脚と蹄では問題が生じます。

これらから冬季には積雪の少ない南面の緩斜面、動きやすい平坦部や林道縁などで採食し、また歩きやすい樹林と接している公園や住宅街に出没するようになったとぼけ老人は思うのである。

おわりに

地球の温暖化が叫ばれる中、地球環境に変化がおき、気候変動等による災害等が報道されていますが、私達も日常生活サイクルの中で、ちょっと視点を変えるだけで周囲の環境の変化が読み取れるのです。例えば道端の草花一つとっても変化しています。また何気なく見過ごしていた中に大発見をすることもあります。今回散歩道における冬季のシカの食害について観察し、ぼけ老人の推測、憶測を交え述べて見ました。

最後に”しかと“(しらばつくれたり、知らないふりをすること)という言葉があります。これは花札の10月の札に描かれている鹿が横を向いていることから「鹿十(しかとう)」博徒の隠語に由来する洒落言葉だそうです。ガッテン

※写真は食べられたムスカリとギボウシの園芸種で9月16日に発見、採食行動が変化して来ているのか？



～大好きハタケシメジ～（豊平川河畔林）～① ④

ハタケシメジ、名前のように畑の横にでも出ているのでついた名前。昔は木工場跡、林道端、土場などにでも出ていたようです。一見土から出ているようだが、腐生菌で地中に木材が無いと発生しない。写真①は豊平川河川敷のヤナギの下、イタドリなどの大型の草が生えている場所で偶然見つけた。傘が開ききってなく幼菌と若い菌。当時は、キノコ採りの経験も浅く無我夢中でキノコを探し回っていた頃で、嬉しくて根こそぎ採ってしまった。今なら大きなものから順に何日もかけて採る。写真④は成菌で収穫量が数倍になる。案の定、それ以来そこでは二度と株立ちのものはお目にかかっている。どんな料理にも合い、収量も大きく、一番好きなキノコです。

～色がきれいなアンズダケ～（あいの里公園）～② ⑤

早朝散歩の「あいの里公園」は、車で10数分かかる我が家から一番遠い公園です。ここはポルチーニ狙いでよく行くが、この年はポルチーニ発生場所近くのシラカバ、アカエゾマツの下にアンズダケのフェアリングを見つけた。鮮やかなオレンジ色で遠くからでもそれと分かる。大きなものからハサミで切り取り、茹でて野菜を加えてピクルスにして試食してみた。歯触りも良く甘い香りで美味しかった。しかし、最近の図鑑には「食不適」とあるので要注意！

～これって本当にエノキタケ？～（豊平川河畔林）～③ ⑥

晩秋、10月下旬から1か月間ほど、豊平川の河畔林（車で10分）をエノキ採りに、約2時間歩き回っています。10数回は通っているので、幼菌③から成菌⑥さらには老菌まで見られ大変勉強にもなります。売っているものは、光を当てずに筒で生育させているので、天然物とかなり形が異なる。イタドリ、ヨシなどの2mを超える野草も介在しているが、ヤナギ林の中は意外と歩きやすい。ただし、ペットボトルなどのプラスチックごみが散乱していて閉口するが、美味しいエノキのことを思えば我慢・ガマン。たまに他人とも出く合わせするが、物好きな輩はそういない。うまくいけば（気温・雨量・他人が入ってない）買い物袋2つの大収穫⑥が年に数回はあるので止められない。傘の大きなものは、焼いて食べるのが良い香りがして最高に美味しい。麺つゆ漬け、甘酢漬けもいける。残りは洗って生のまま冷凍保存。エノキの他にアラゲキクラゲ（エゾニワトコの木）、ムラサキシメジ（ごく限られた箇所）にも出会う。家から近くて、都会でのキノコ採りの穴場です。

～ポルチーニにそっくりヤマドリダケモドキ～（モエレ沼公園）～⑦ ⑩

自宅から車で10分以内にある公園をフィールドにして、早朝キノコ散歩（朝食前1時間ほど）をしています。毎年、同じキノコに再会しキノコの成長過程が観察でき、勉強になります。美味しいキノコを収穫するのが第1の目的。野ロイサムが設計したモエレ沼公園に発生する美味しいキノコたちを紹介します。1周すれば1時間はかかる広い公園で、カラマツ林にはラクヨウ、キヌメリガサが発生しますが、競争相手が多くめったに見られない。チップ道にはサケツバタケの群生が見られる。採る人もいないので、大発生する年は、実に見事で大収穫となる。ハタケシメジが出る箇所が数か所あるが、これも競争相手いてなかなか大量に採れない。狙い目はポルチーニで、歩道から少し離れた「子どもの森」のミズ

ナラ林に毎年出る。競争相手がなくて、うまくいけば（気温、雨量）幼菌⑩の左から成菌⑩の右になる様子が観察できる。成菌を1日置きぐらいに数回にわたって収穫できる⑦。他に、エノキタケ、キクラゲ、ヌメリスギタケモドキ、ハルシメジが見られる。都会でのキノコ採りの穴場です。

～当たれば大量ナラタケ～（札幌さとらんど横）～⑧ ⑩

札幌さとらんど横のシラカバ林（自宅から徒歩15分）を散歩中、ナラタケ⑧の群生を発見。以前から積まれていた丸太（シラカバなど）から、たぶん今回（H26）が初めての発生と思われる。4～5人で2日にわたって採れる量。翌年も発生したが少量。翌々年は発生なし。4年目のH30年は、なんと数メートル横のシラカバ林の中に群生。ひよっとしたら、前の年も発生していたのを見逃した可能性がある。しかも、去年はまた場所が移り、以前の丸太に群生。発生する場所が移動する非常に珍しい経験をしました。早朝散歩は、健康プラス食材確保で一挙両得です。

～これぞ都会のキノコ・ヒラタケ～（住宅駐車場）～⑨ ⑫

これぞ都会のキノコたちというにふさわしい場所、我が家から徒歩5分の住宅駐車場横に発生したヒラタケです⑨。車道側に3本、奥方向に6本のナナカマドの内2本から出ていた。地上1Mほどの高さまで重生（群生）し、早速収穫し美味しく食べた。当会発行の図鑑には、☆印優秀な食用菌（塩・こしょうで下味をつけ、とろけるチーズを乗せたオープン焼きは絶品。）とある。10年ほど前には、この菌を栽培して「シメジ」の品名で売られていた。最近は見られず、「ブナシメジ」に変わってきている。この年はヒラタケの大発生の年のようで、あいの里公園、道民の森青山地区でもナナカマドの立木から発生しているのを見かけた。ウスヒラタケとよく似ているが、肉厚で写真からでもヒラタケと分かる。

～キクラゲってなーに？～（豊平川河畔林）～⑬

キクラゲを見せるとたいていの人は、へえー初めて見た、キクラゲってキノコなの！海藻かと思っていた！とか木になっていたとは知らなかったと言う。何ぼ一と生きてんじゃ無いよと「チョコちゃん」にしかられる。世の中にキクラゲを知らないで生きている人がなんと多いことか。でも、ケンちゃんもキクラゲがキノコで、どこで採れるかも知っています。それは、豊平川河畔林のエゾニワトコの老木になっている。写真は、背面が細毛で覆われピロード状になっている「アラゲキクラゲ」（粗毛木耳）でいわゆる「キクラゲ」と少し異なる。発生時期は5～10月で一年中みられる。中華料理でおなじみの乾燥物が流通しているが、最近はより歯ごたえのある生のものもよく見かける。

～これが食べられたらなあテングタケ～（モエレ沼公園）～⑭～⑯

ここ数年モエレ沼公園、あいの里公園でテングタケの大発生が見られる。それも半端でない。皆さん蹴っ飛ばして歩いている。ありとあらゆる場所（針葉樹、広葉樹とも）、ハタケシメジ・ヤマドリダケモドキが出る場所も。毒キノコだと知れ渡っているので誰も採らない。我が物顔で威張って、素晴らしいフェアリング（菌輪）⑭⑯を作っている。晩夏のキノコなので成長が早く円筒状の幼菌から数日で傘が開き成菌になる⑯⑰⑱。土中では、様々な菌が戦争していて、テングタケが勢力を伸ばしているのだろうか。食用菌は毎年きれいに採ってしまい、徐々に収穫量が減ってきている。誰かテングタケを採ってくれないかなア、これが食べられたらナアといつも思う。

都会のキノコたち 1

| | | |
|--|---|--|
|  |  |  |
| <p>① H21. 8. 4 豊平川河</p> | <p>② H22. 7. 24 あいの里</p> | <p>③ H25. 10. 31 豊平川</p> |
|  |  |  |
| <p>④ H27. 9. 17 さとらんど</p> | <p>⑤ H26. 8. 24 あいの里</p> | <p>⑥ H27. 11. 12 豊平川</p> |
|  |  |  |
| <p>⑦ H27. 8. 2 モエレ沼</p> | <p>⑧ H27. 9. 9 さとらんど横</p> | <p>⑨ H22. 7. 24 住宅駐車場</p> |
|  |  |  |
| <p>⑩ H27. 9. 17 あいの里</p> | <p>⑪ H30. 9. 28 モエレ沼</p> | <p>⑫ H28. 9. 21 伏古大通り</p> |

(注) 豊平川・・豊平川河畔林、石狩川・・石狩川河畔林、さとらんど・・札幌さとらんど、

あいの里・・あいの里公園、モエレ沼・・モエレ沼公園、伏古大通り・・伏古川の上

都会のキノコたち2



⑬H27. 11. 30 豊平川



⑭H30. 9. 2 モエレ沼



⑮ 同 左



⑯R1. 8. 22 あいの里



⑰R1. 8. 23 同 左



⑱R1. 8. 24 同 左



⑲H26. 8. 20 モエレ沼



⑳H26. 8. 20 モエレ沼



㉑H28. 9. 21 あいの里



㉒H27. 10. 1モエレ沼



㉓H25. 5. 3 モエレ沼



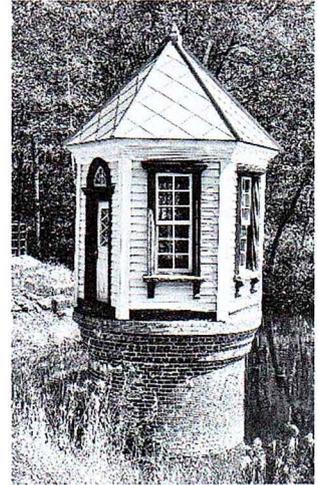
㉔H25. 10. 7 豊平川

(注) ⑲・・・タマゴタケ (食) ⑳・・・キンチャヤマイグチ (食) ㉑ ニセマンジュウガサ (食)

㉒・・・カラカサタケモドキ (毒) ㉓・・・アミガサタケ (食) ㉔・・・ヌメリスギタケモドキ (食)

この春、2年に及ぶ改修工事を終え、札幌市豊平区の市民の憩いの場としてリニューアルされました。明治43年旧陸軍の上水用に月寒川をせき止めて造られた西岡水源池。戦後札幌市の水道水源として使われた後、公園として整備され昭和52年に開放されました。40年経った木製の木道は、その下に湿地の水が集まって深い水路を作り、湿地の乾燥化を進め、木道そのものも老朽化したため、何度も市民と行政の間で話し合いがもたれて、新しい木道ルートと一部バリアフリー化の工事が施工されました。

新しいルートで湿地にかけられた木道は、木材を樹脂で固めた材が使われ、段差のない歩道に手すり付きの木道となりました。以前の木道愛好者には物足りなさを感じるようですが、子供や高齢者を伴った家族連れには、安心して歩きやすくなった、との評判です。



国の登録有形文化財の取水塔

私がこの公園に足しげく通うようになって、約10年になります。初めて訪れた時は、何もなくてつまらない公園だなあ〜と思いました。偶然知った植物調査の会に参加させてもらったことがきっかけで、今ではボランティア団体として活動させていただくようになり、歩くたびに新しい発見と感動を味わえるかけがえのない公園となりました。

西岡公園は人の手によって作られた公園ですが、周辺住民の方々の熱い保護活動によって守られてきたことで、自然豊かで、多種多様な生き物が生息する環境になりました。この先、都市公園として、自然とのかかわり方を学べる場としての役目を果たしつつ、豊かな自然環境も維持していくには、試行錯誤しながらも積極的に公園の維持管理に関わっていかないと、手遅れになる危機感も感じています。植物では、ムスカリやイギリスゼリ等の園芸種、アメリカオニアザミやビロードモウズイカ、ノラニンジン等、一度侵入すれば勢力拡大を止められない物を、見つけ次第抜き取る作業をしています。オオハンゴンソウ防除作業もその一つで、毎年、夏と初冬に3回ほど抜き取り作業を行っています。10年前の初回の抜き取り作業では約90kgもあった量も昨年は2回あわせても1kg以下まで減りました。それでも毎年開花株を発見するので、これからも続けていくつもりです。

動物では、鹿が問題です。ここ数年、公園内全域で足跡や角こすり痕、樹皮の食痕が見られ、オオウバユリの花芽が食べられています。この状態が続けばオオウバユリが公園から消えてしまうのも時間の問題です。何とか一部だけでも守れないかと、昨年は花芽に網掛け保護を行って、開花を見ることができたのですが、実になってから、食べられてしまいました。今年も網掛けを行って、いろいろと対策を考えていきたいと思っています。

休日にはたくさんの家族連れが訪れるこの公園の魅力の一つは、水源池のもたらす水辺の風景だと思います。マガモやカイツブリやカワセミの親子連れ、初夏にはハリオアマツバメの迫力ある水飲み飛行を是非見てほしいと思います。公園内を南へ抜けると白旗山まで自然歩道が続いていて、途中、一周4.5kmのレクの森や焼山へ行く歩道もあって、色々楽しめる散策もお勧めです。これからの季節、是非！リニューアルした西岡公園に足を運んでみてください。

令和3年2月1日の中央環境審議会で厚岸道立自然公園が「厚岸霧多布昆布森国定公園」に格上げされるところが了承され、(2月2日付け、北海道新聞 第3社会面/↓切抜、参照) 3月30日付けで”指定”された。

我が北海道が誇る豊かな自然を保護・保全し次世代に引き継いでいく、ルールに則って賢明に利活用しその恩恵に浴する一。

道内における各種指定や認定状況等は、自然公園法：国立公園6・国定公園6、道条例：道立自然公園11、ラムサール条約：登録湿地13、ユネスコ：世界自然遺産1・世界ジオパーク2、日本ジオパーク委員会：国内版ジオパーク3、北海道遺産協議会：北海道遺産67などがあります。

ちなみに、ラムサール条約とは昭和46年2月2日イランの都市・ラムサールで採択された湿地に関する条約で、正式名称は「特に、水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」のこと。

また、ユネスコは、国際連合教育科学文化機関のこと。英語表記の頭文字からの呼称～United Nations Educational Scientific and Cultural Organization～です。ここで改めて、国立公園・国定公園、道立自然公園の指定状況を見てみましょう。

| | |
|--|--|
| 国立公園 6か所 1 阿寒摩周 (S 9.12. 4指定、H29. 8. 8改称) 2 大雪山 (S 9.12. 4指定) 3 支笏洞爺 (S24. 5.16指定) 4 知床 (S39. 6. 1指定) 5 利尻礼文サロベツ(S49. 9.20指定) 6 釧路湿原 (S62. 7.31指定) | 国定公園 5→6か所 1 大沼 (S33. 7. 1指定) 2 網走 (S33. 7. 1指定) 3 ニセコ積丹小樽海岸(S38. 7.24指定) 4 日高山脈襟裳 (S56.10. 1指定) 5 暑寒別天売焼尻 (H 2. 8. 1指定) 6 厚岸霧多布昆布森 (R 3. 3.30指定) |
| 道立自然公園 12→11か所 1 厚岸 (S30. 4.19指定) 2 富良野芦別 (S30. 4.19指定) 3 檜山 (S35. 4.20指定) 4 恵山 (S36. 6. 1指定) 5 野付風蓮 (S37.12.27指定) 6 松前矢越 (S43. 5.15指定) | 7 北オホーツク (S43. 5.15指定) 8 野幌森林公園 (S43. 5.15指定) 9 狩場茂津多 (S47. 6.23指定) 10 朱鞠内 (S49. 4.30指定) 11 天塩岳 (S53. 1. 6指定) 12 斜里岳 (S55.11.13指定) ※ 8のみ、道立自然公園を先に表記します。 |

このほかにも、巨木〇〇選とか〇〇景など、様々な指定がありますね。猛威を振るうコロナ禍が一段落した暁には、これらの指定公園や登録・認定・選定箇所などを巡る旅もまた楽し、です。ボラレンの皆さまの、レポート・投稿も期待しつつー。

25 第3社会 16版 2021年(令和3年)2月2日(火曜日)

厚岸公園「国定」格上げ

中環審、来月にも面積「道立」の2倍

環境相の諮問機関・中央環境審議会は1日、自然環境部会を開き、厚岸道立自然公園(釧路管内厚岸、釧路、浜中町)を国定公園に格上げし、「厚岸霧多布昆布森国定公園」として指定することを了承した。近日中に答申する。3月中旬に指定を官報で告示し、正式に決定する。

国定公園は、現在の道立自然公園に隣接する別寒辺牛湿原(厚岸町と釧路管内標茶町)や、浜中町の幌戸沼、釧路町の来止臥などを加えた4万1487㌔。道立自然公園の約2倍の面積となる。昆布森から尻羽岬の海岸線など雄大で荒々しい海食崖が連続した岩石海岸や、霧多布湿原といった国内有数規模の湿原があるほか、タンチョウやラッコなど希少な動物が生息していることが評価された。

国定公園は、国立公園に準じる傑出した自然や景色が見られる地域として国に認められたことになることから、知名度や発信力が高まり、観光振興につながるなどが期待できる。管理は道が行うが、一部事業で国目。(小森美香)

立自然公園の約2倍の面積となる。昆布森から尻羽岬の海岸線など雄大で荒々しい海食崖が連続した岩石海岸や、霧多布湿原といった国内有数規模の湿原があるほか、タンチョウやラッコなど希少な動物が生息していることが評価された。

国定公園では、樹木の伐採や植栽、放牧、落ち葉の採取などの現状の変更が原則禁止される「特別保護地区」が指定でき、環境保全が強化される。今回は、ハシロキの自然の植生が残る別寒辺牛湿原と、自然の景観が維持されている霧多布湿原の計906㌔が特別保護地区になる。

道内の国定公園の指定は1990年の暑寒別天売焼尻国定公園以来で、6カ所目。

花粉症の話

2021/03/20 藤田 潔

今年は積雪も多く、春遠からじといったところでしょうか。春といえば花咲く季節、当然のように花粉も飛び回ります。花粉症の方にはつらい季節となりました。では花粉症って何だろう？原因は？となるとかなり複雑なファクターが絡み合っています。以下私のわかる範囲で書いてみます。

ちなみに私は観察会では“セイタカアワダチソウ（注1）は虫媒花なので花粉症の原因植物ではないようです。犯人扱いされてかわいそうです。ただしアワダチソウだらけの中を走り回れば花粉症の症状が出てしまうかもしれません。”というような言い方をしていますが正しいのでしょうか。検証していきます。

注1) 私たちがセイタカアワダチソウと信じていた植物はどうやらケカナダアキノキリンソウのようです。詳しくは北方山草（37）：19-23.March 2020 をご覧下さい。

花粉症とは

日本アレルギー学会では

“花粉症とは花粉を原因として引き起こされるアレルギー反応による鼻や目の症状”

と定義しています。ただ一般的にはスギ・イネ科などの原因植物の開花時期に山林・田・畑に近づかなくてもアレルギー症状を起こしてしまう症状のことを指すようです。

また花粉症は季節性アレルギー性鼻炎という言い方もあります。これはアレルギー性鼻炎というのは原因物質（アレルゲン）によって2種類に分類されており1つはダニ・ホコリ等による通年性アレルギー性鼻炎で残る1つは季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）となります。

アレルギー反応

本来は無害な物質（花粉や食物など）に対して免疫反応が過剰に起こること

I型アレルギーからIV型アレルギーに分類されており、そのうち花粉症はI型アレルギーに相当します。I型アレルギーはIgE抗体による即時型であり急性の症状を引き起こします。I型には花粉症の他にもアナフィラキシーショック、喘息、食物アレルギーなどがあります。

花粉症のメカニズム

私たちの体の中ではこのようなことが起こっています。



- ① “花粉” という異物(アレルゲン)が侵入すると容認するか拒否するかを考えます。(感作という状態。)
- ② 排除すると判断します。
- ③ アレルゲンに反応してリンパ球(Bリンパ球)が“IgE抗体”を作ります。
- ④ IgE抗体が肥満細胞に結合します。(準備完了。)
- ⑤ 再び花粉が侵入すると、鼻や目の粘膜にある肥満細胞の表面にある抗体と結合します。
- ⑥ その結果、肥満細胞から化学物質(ヒスタミンなど)が放出され、その刺激で花粉をできるだけ体外に追い出す反応を起こします。(免疫反応)

……そのため、くしゃみで吹き飛ばす、鼻水・涙で洗い流す、鼻づまりで中に入れないよう防御するなどの症状が出てきます。これが花粉症です。

風媒・虫媒・水媒・鳥媒

ここで送粉の方法による違いも見てみます。やはり風媒というのは花粉症を引き起こす大きな要因と言えそうです。

- ・**風媒**：風によって送粉させる方法です。スギやヒノキが風媒であることは有名ですが、北海道では少ないのでシラカバ・ハンノキがこれにとって代わります。風媒は、花粉を「下手な鉄砲も数撃ちや当たる作戦」で送粉するため、大量にしかも小さくサラサラの形状の花粉を巻き散らかします。その為**多くの人が花粉症で悩まされる**のです。
- ・**虫媒**：昆虫によって送粉させる方法です。花に来た昆虫は移動先も花である確率が高いので風媒花ほど「無駄な花粉」を生産する必要がなく、生産する花粉の数は少なくて済みます。風媒花よりも虫媒花の種類は多く世界の被子植物のうち 87.5%が昆虫や鳥

に送粉を依存していると考えられています。

運び役はハチやハナアブなどで、花粉は虫の体に付着しやすい形態をしていたり複数個がまとまって一度に運ばれるような工夫をしています。

つまり虫媒花の花粉はそもそも数が少なく、花のあるところから余り外れないことで**花粉症の原因になりにくい**こととなります。

・**水媒**：アマモのように水中で花を咲かせて送粉させる方法です。めしべに引っ掛かりやすいように花粉は3mmほどの大きさがあります。風媒花の花粉の10 μmに比べると非常に大きいといえます。花粉は水中ということになります。

・**鳥媒**：鳥によって送粉させる方法です。ハチドリや皆さんおなじみのメジロが挙げられます。仕組みは虫媒花に似ています。

花粉症の原因物質は何？

花粉症の原因はといえばもちろん花粉ですが花粉自体に毒性があるわけではありません。花粉症の本質は前述の通り花粉に対する急性のアレルギー症状(鼻水、鼻づまり、目のかゆみなど)でありその**原因物質(アレルゲン)は花粉中のタンパク質**であることがわかっています。

現在花粉症の主因はスギであることからスギ花粉のアレルギーの研究が進んでおり、これを例にとって花粉のどの部分が原因物質なのかさらに深掘りしてみます。

スギ花粉症

背景：近年スギ花粉症の患者が激増した原因として戦後人工造林されたスギやヒノキ材の多くが着花年齢に達し、花粉の生産量が急激に増加したことが挙げられます。

原因物質の特定と特徴：スギのアレルゲンとしては **Cry j 1** と **Cry j 2** の2種類のアレルゲンタンパク質が同定されていて、それぞれ花粉表面と花粉内部に存在します。花粉自体は大きいので呼吸器の深部まで入り込めませんがCry j 1 とCry j 2 は小さいので簡単に体内に侵入し重篤なアレルギー反応を引き起こします。

(右図は“空気の困りごとラボ”“スギ花粉アレルギーのメカニズム”より 一部改変)

花粉は自然に浮遊している状態でも2割程度は破裂してアレルゲンが飛び出しますが、大気汚染物質(黄砂、排気ガス、PM2.5など)によりアレルゲンの分離が進み約8割が破裂して空中に漂い吸入



されてしまいます。



図 “花粉症と大気汚染の原因物質との関連性を科学的に解明” より

対策：スギ花粉症の対策として ①たまたま花粉の出ない樹を探し出し親木として無花粉スギを作り出す。 ②遺伝子組み換えによるアレルゲンフリーの組み換えスギの創出。などがあります。

果物アレルギーと花粉症

果物を食べると口の中のかゆみや、唇の腫れなどの症状が出る「果物アレルギー」が増えています。飲食して 5 分以内に口腔内や唇に違和感が出ることから「口腔アレルギー症候群」とも呼ばれ、花粉症の人が発症しやすく、関連があるといわれています。

果物や野菜に含まれるタンパク質が花粉のアレルゲンと似ている例があるといわれていますが詳細は不明です。しかしある種の植物の花粉と果物や生野菜とは関連しているとの報告があり「交差反応」と呼ばれます。以下一覧にしてみます。

| 花粉 | くだもの 野菜 |
|-------------------|---|
| シラカンバ、ハンノキ | リンゴ、モモ、サクランボ、西洋梨、スモモ、アンズなどのバラ科植物。キウイ、マンゴー、セロリ、ニンジンなど。 |
| スギ | トマト |
| カモガヤ、ハルガヤなどのイネ科植物 | メロン、スイカ、トマト、キウイ、オレンジなど。 |
| ブタクサ | メロン、スイカ、バナナ、キュウリなど。 |
| ヨモギ | マンゴー、セロリ、ニンジンなど。 |

「口腔アレルギー症候群」の場合加熱するとアレルゲンが分解されるので、缶詰などは問題が起こらないといえます。いわゆる食物アレルギーとはここが違います。

花粉症の診断と治療

現在医療機関では血液検査等でアレルゲンを特定できるようになり、治療法も薬物をはじめとして多岐にわたっています。

ここで最初の命題に戻ってみます。果たして虫媒花は花粉症を起こさないのでしょうか。専門家の医師によれば、ビニールハウスなどの閉鎖された空間で接近して作業をすれば花粉症となるそうで、実際メロンによる花粉症患者がいるそうです。アレルゲン検査の中には“アカシア”という項目がありアカシア花粉症の人がいますが北海道ではどうでしょう。北海道でアカシアと呼ばれるのはご存知の通り“ニセアカシア”です。アカシアは風媒花、ニセアカシアは虫媒花ですから養蜂家でもない限りニセアカシア花粉症にはならないといえます。

アレルギー専門の医師でも誤解していることがあります。ある講演会で北海道にはスギとブタクサはないのでそれによる花粉症は考えなくてよいと言っていました。道南、札幌、江別にはそれなりにスギがあり、ブタクサに至っては北海道ブルーリストによれば全道に広まりつつあります。この辺りはボラレン会員の出番があるかもしれません。

参考/

- ・ 北方山草 (37) : 19-23.March 2020
- ・ 鼻アレルギー診療ガイドライン ～通年性鼻炎と花粉症～
鼻アレルギー診療ガイドライン 2019年版
- ・ 花粉症ナビ KYOUWA KIRIN 2021/3/20
- ・ わかりやすい病気のはなしシリーズ 18 花粉症 日本臨床内科医会
- ・ スギのアレルゲン遺伝子の単利とその利用
森林総合研究所 生物工学研究領域樹木分子生物研究室 二村 典宏 他
- ・ 花粉症と大気汚染の原因物質との関連性を科学的に解明
埼玉大学工学部・環境共生学科 物質循環制御研究室 王 青躍 2015/7/27
- ・ スギ花粉アレルギーのメカニズム プロテック (株)
- ・ 空気の困りごとラボ ダイキン工業

他

花柳 なんと読む？

2021/4/21 藤田 潔

木々の蕾もほころぶ季節となりました。花にかかわる話題を一つ。
ここに「花柳」という言葉があります。これは何と読むのでしょうか。“ハナヤナギ”“ハナヤギ”“カリユウ”といったところでしょうか。植物にかかわるマニアックなものから伝統的な日本の文化を表現する言葉でもあります。まずは“ハナヤナギ”から。

ハナヤナギ

少々無理がありますがカタカナ読みでハナヤナギというのを探してみると想定外でしたが種名ハナヤナギというのがありました。*Chondria armata* フジマツモ科の紅藻類でれっきとした植物です。調べてみるものです。

また園芸の世界ではまさしく花柳（ハナヤナギ）と呼ばれるグループがあつて *Cuphea micropetata* ハナヤナギ を主体としたミソハギ科タバコソウ属のエゾミソハギ、サルスベリ、タバコソウなどの一群のことで、栽培品種も多くあります。

（右の画像）



ハナヤナギ

かりゅう はなやぎ はなやなぎ

花柳（かりゅう）といえば花柳界、花柳（はなやぎ）と言えば日本舞踊の花柳流が思い浮かぶのではないのでしょうか。原点をたどってみます。

そもそも花柳とは中国から入った言葉です。その昔中国では遊女などがいる地域を「柳巷花街」「花街柳巷」と称し、略して「花柳」といったことに由来しています。柳巷は柳の木を並べて植えた街路のこと、花街は花の咲いている街を指していますが艶めかしい遊女を柳と花にたとえたともいわれます。花柳流についても通説では創始者吉次郎が吉原（花柳界）で育ち、一時稽古に踊りを教えたことにちなんで花柳吉次郎を名乗ったとされています。

さらに着物の世界では広辞苑によると【花柳（はなやなぎ）】襦（かさね）の色目。表は白、裏は青、春に用いる。とあります。足元に見え隠れするコントラストはいかにも粋な感じがします。

花柳 植物の種類は？

はたして花柳を表す植物はなんでしょうか。まずは“柳”の方から。ヤナギの種類は勘弁して欲しいほどたくさんありますが、ここでいうヤナギは皆様ご存じシダレヤナギです。大きさ、姿ともにはないのですがなぜ外来種のヤナギなのでしょう。それは中国でもその淡い緑の樹形は重用され、日本に伝来したときはその美しさや物珍しさも手伝って植えられたものと思われます。日本の風土にもあっていました。

次に“花”ですが、日本において花と言えば万葉の頃は梅でしたが古今集の頃より花は桜と相場が決まったようです。薄紅色の桜と若緑の枝垂れ柳の取り合わせは春のほのぼのとした雰囲気ぴったりと言えます。そういえば時代劇を思い浮かべると確かに色街ではお堀があってその淵には桜と柳があったかもしれません。

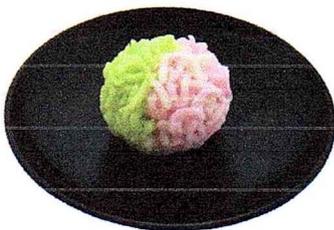
京都の川沿いは桜と柳が交互に植わっています。いわゆる護岸のために各種の木を植えてみたが水に強い桜と柳が残ったともいわれます。平安時代にはすでにそうだったようで、素性法師がこんな歌を残しています。

見渡せば 柳桜をこきまぜて みやこぞ春の 錦なりける

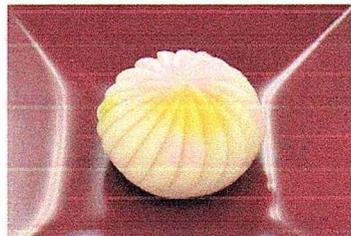
京の生麩専門店「麩嘉」では春の時期の煮物は柳の芽というデザインになっています。生麩の生地をピンクに染め、若草色の麩をかけてその横に小さなチョコボを。いかにも京都らしいデザインです。



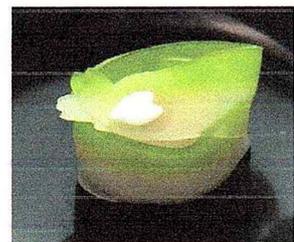
和菓子でも若草色とピンクの組み合わせで春が感じられる銘菓が並びます。心象におけるマッチングでしょうから桜と柳かどうかはあなた次第です。



都の春 御菓子所 両口屋是清



桜 京菓子 鍵帳



都の錦 清月堂本店

参考/

- ・ 婦人画報監修 京都情報サイト「きょうとあす」
- ・ 麩嘉 ホームページ
- ・ Wikipedia 他

自然観察 NOW

NO : 54

野幌森林公園自然情報

発行：2021年3月21日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



エゾサンショウウオ

【 日本にすむサンショウウオ 】

サンショウウオは、体長1m以上を超える大型と、20cm以下の小型の二つに分けられます。オオサンショウウオは、本州に分布し、主に水中で生活します。小型のサンショウウオは日本には約40種類分布し、北海道にはエゾサンショウウオとキタサンショウウオの2種類がすんでいます。

【 エゾサンショウウオは、世界の中で北海道にしかすんでいない！ 】

エゾサンショウウオは、北海道にのみ生息しており、体長が12～20cmで、体の背面は一様に青みを帯びた暗褐色で、腹面は灰色で微細な暗褐色の点が密にあるのも多いです。足の指の数は前足が4本、後足の指は5本あります。肋条は前足と後足との間にできた「皮膚の溝」をいい、普通は11本あります。

キタサンショウウオは、世界に広く分布していますが、国内では釧路湿原のごく限られた地域しかすんでいません。体長が11～13cmで、産みつけた直後の卵のうは青白い蛍光を発しています。足の指の数は前足が4本、後足の指は4本あります。キタサンショウウオは、天然記念物に指定されています。

【 おとな（成体）のエゾサンショウウオ 】

産卵期になると雄と雌の間には、体型にはっきりした相違が現れます。雄は繁殖地へ向かう時は、スリムな体型、繁殖期の水中にいるときは頭部と胴部が平たくなり、数日経つと脇腹がしわ状の隆起（胴の側面に見られる肋条＝上記「皮膚の溝」）が鮮明になり、尾の部分は上下に広がって魚の「ひれ」に似た状態になります。水中での活動に適した体になります。一方、雌は産卵のために水中に入ると、卵の入っているお腹の部分がしだいに膨らんで、産卵直前には、はっきり膨らみが出てきます。生殖行動は夜間に行われることが多いようです。

雄の水中滞在期間は、平均6日から12日。雌は産卵を終え水中から陸に上がります。出産という大きな仕事を終えた後は、任務を終えたから水中から出るというわけだけでなく、疲労した肉体が皮膚呼吸を長く続けることが難しいことかもしれません。

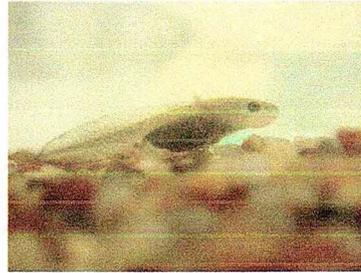


【 卵が入った袋 (卵のう) 】

エゾサンショウウオの卵のうは、らせん状に巻いた長いひも状で透明、かなり柔らかいです。表面にしわがあり、20～80個の卵が入っております。温度が高くなると卵の発生が早くなります。

卵のうにとって最大の敵は、トビゲラの幼虫による捕食です。特に止水性の場合は多数繁殖し、これが卵のうの中に入り込み死滅に追い込むという結果を招くことになるのです。

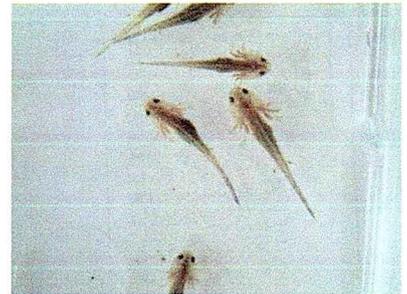
4週間くらいで卵のうから飛び出て幼虫になり、水中で泳ぎ始めます。ふ化後の幼虫の体長は約 1.3～1.7 cmほどの大きさとなります。



【 幼 生 】

産卵間もない卵は、約40日間位で、ふ化直前の幼生の姿にまで成長します。頭の後ろに「えら」を発達させ、水中の酸素を「えら」から体内に取り込むようになります。止水性では幼生は肥えて上下幅広く、エサの水生昆虫やプランクトンを容易に食べます。流水性では幼生はスマートで、エサはなかなか捕食できないので痩せる傾向になります。

ふ化後しばらくすると、幼生は「えら」の下から前足（前脚）を出して、そのあとで後足（後脚）を出します。エサ不足の幼虫は、大きな幼生が小さな幼生を丸呑みして食べる「共食い」をします。



【 幼 体 】

大きくなった幼生は、水中の酸素を取り入れるえら呼吸から、肺で呼吸する陸上生活へと変わります。陸上生活に適応した姿に変わることによって上陸生活が可能になります。

幼体は、水中から出ると繁殖場所周辺の枯葉、大きな石などの下で一晩を過ごし、翌日からは枯葉が堆積する林床でミミズ、ナメクジ、ワラジムシなどを食べる生活を始めます。

幼体の天敵は、ヘビや鳥類、アライグマなどであり、自然条件からいうと直射日光や乾燥です。寒くなると深く土中に潜ります。翌年から陸上生活をおくる成体になります。

観察会案内

4月22日(木) 春の花を見つけよう 9:50～11:00 自然ふれあい交流館集合・解散(事前申し込み制)

参考文献：ネット情報 (Wikipedia)、エゾマツ85号、北洋水族館

写真提供：自然ふれあい交流館

文責：成瀬 司

自然観察 NOW

NO : 55

野幌森林公園自然情報

発行：2021年4月22日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



「配置替え」の植物たち

草木萌え出る季節になりました。芽吹く姿は年々変わりませんが、草木を取り巻く状況が変化しました。植物の所属科名などを決める分類体系の刷新です。APG体系と言って、遺伝子本体であるDNAの構造の違いを分子レベルで分析し、どう進化したかの道筋（系統）を調べて分類する方法が主流になったのです。主に形態の違いに基づいた従来の新エングレー体系と比べ、科の再編が大幅に行われ、多数の植物が「配置替え」になりました。1998年の発表以来改訂を重ね、2016年の第4版APGIVが最新版です。図鑑も新体系の採用が標準になりつつあり、3年前発行の梅沢俊著「北海道の草花」もAPGIVに準拠した内容です。APG体系にまつわるエピソードを幾つか紹介します。

① 大規模解体され新生ユリ科は小ぢんまり

ユリ科→ユリ科・イヌサフラン科・シュロソウ科・サルトリイバラ科・チシマゼキショウ科
・キンコウカ科・ヒガンバナ科・クサスギカズラ科・ワスレグサ科・サクライソウ科

世界に約5000種といわれた大所帯のユリ科は、激変した科の一つです。大規模に解体され、国内の自生種は計10科に再編されました。スリム化したユリ科は、ユリ属、ウバユリ属、ツバメオモト属など10属が残っただけです。2013～2017年の調査報告書「道立自然公園野幌森林公園の植物」には、ユリ科として28種記録されていますが、新しいユリ科はオオウバユリ、クマユリなど5種だけ。ホウチャクソウやチゴユリはイヌサフラン科（チゴユリ科）、バイケイソウやエンレイソウの仲間はシュロソウ科、マイヅルソウやオオアマドコロはクサスギカズラ科（キジカクシ科）にそれぞれ移籍しました。

② 仲間が増えたレンプクソウ科、その結末は…

別名ゴリンバナ（五輪花）のレンプクソウはユニークな花です。花茎の先に付く5個の花は、上向きの1個の花冠が4深裂し、その下の横向き4個の花冠は5深裂しています。形が面白いだけでなく、分類上も話題の多い野草です。レンプクソウ科は、中国で新種が発見されるまで長らく1科1属1種の科とされてきましたが、2009年公表のAPGIIIでスイカズラ科のガマズミ属とニワトコ属が加わりました。オオカメノキ、ミヤマガマズミ、エゾニワトコなど一気に約200種と仲間が増えたのです。でも、そこから一歩乱ありました。歴史的には、レンプクソウ科よりガマズミ科の科名発表の時期が早いことが分かり、古い名前に優先権があると提起されたのです。その結果、レンプクソウ科改めガマズミ科になると国際植物学会議で決まったのが2017年。小さな花が代表種となったレンプクソウ科は、8年ほどで改名されてしまいました。



オオウバユリ若葉



ホウチャクソウ開花



ミヤマエンレイソウ開花



レンプクソウ開花



オオカメノキ芽吹き

③ カエデ科、シナノキ科…馴染みの名前が消えた

紅葉をめぐる木として親しまれるカエデ・モミジ類のカエデ科と、道内では街路樹も多いトチノキのトチノキ科がなくなったのは、衝撃的な出来事でした。ともにムクロジ科に吸収されましたが、その代表種のムクロジは道内に自生していないため、科名にあまり親近感を覚えないと言う人もいるはずです。研究者の間で、両科を独立した科として認めて良いという意見もあるそうで将来、復活劇があるかもしれません。花期に甘い香を放つシナノキやオオバボダイジュのシナノキ科もなくなり、アオイ科に入りました。もともと暖地系のアオイ科にはハイビスカスやオクラも含まれ、道内では公園などに植えられるムクゲがお馴染みです。さらに、大型袋果に艶々した綿毛が納まるガガイモやイケマのガガイモ科は、キョウチクトウ科に統合され消失しました。



イタヤカエデ開花



シナノキ冬芽

④ ギンリョウソウもシャクジョウソウもツツジ科

日本人好みのツツジやシャクナゲに代表されるツツジ科も大きな科でしたが、近縁の科との系統関係が解明されるにつれ、他科を取り込みさらに膨張して約4000種になりました。中でもイチヤクソウ科の吸収は、一部ではツツジ科のイメージを変える「事件」と受け止められています。新エングレー分類体系では、イチヤクソウやベニバナイチヤクソウなどのイチヤクソウ属、ウメガサソウのウメガサソウ属のほか、葉緑素を持たない菌寄生植物のギンリョウソウやシャクジョウソウもイチヤクソウ科でした。こうした仲間が加わり、ツツジ科は木本・草本入り交じり、外形的にも多種多様な植物集団になりました。



ベニバナイチヤクソウ開花



ツルアジサイ残存果序

⑤ アジサイ科が晴れて独り立ちデビュー

新エングレー分類体系のユキノシタ科も多様な種を含み、大再編が予想されていた科です。やはり国内自生種は6科に分割され、その一つとしてアジサイ科が独立しました。しかし、新エングレー体系同様によく使われていたクロンキスト分類体系では既に、アジサイ科は別の科と位置づけられているので、今回いわば独立が「追認」されたと言ってもいいかもしれません。普通に見かけるツルアジサイ、ノリウツギ(サビタ)、エゾアジサイはアジサイ属、イワガラミはイワガラミ属です。ツルアジサイ、ノリウツギ、イワガラミは白い飾り花(装飾花)を持ついわば「飾り花3兄弟」。晩秋から翌春にかけ、装飾花を付けたまま果序が折れ曲がってぶら下がっていたり、雪面に落ちていたりする様子を観察できます。3兄弟の「個性」の違いを見つけ出すのも楽しいものです。



ノリウツギ冬芽

参考図書：新しい植物分類体系(伊藤元己・井鷲裕司、文一総合出版)、野草大図鑑(高橋秀男監修、北隆館)、北海道の草花(梅沢俊、北海道新聞社)、道立自然公園野幌森林公園の植物(野幌森林公園植物調査の会)

(文責・堀川勉)

観察会予定

| | | |
|---------------------|-------------|------------|
| 5月15日(土) 春のありがとう観察会 | 9:50~11:00 | 自然ふれあい交流館5 |
| 5月23日(日) 恵庭公園観察会 | 10:00~12:30 | 恵庭公園中央駐車場5 |
| 5月28日(金) 藻岩山登山観察会 | 9:00~13:00 | 慈啓会病院前登山口 |

自然観察 NOW

NO : 56

野幌森林公園自然情報

発行：2021年5月15日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



視点1・スミレの花

花弁は5枚(上弁2・側弁2・唇弁2)

唇弁の後端は袋状になっており距(キョ)と呼ばれる。



この写真は、恵庭公園で撮りました。オオタチツボスミレの花を撮ってきたのですが、拡大してビックリ。側弁の基部に毛があるではありませんか。アイヌタチツボスミレでした。



オオタチツボスミレの距



ナガハシスミレ(テングスミレ)の距は大きいぞ

※野幌森林公園のスミレ

★採取標本のあるもの～オオタチツボスミレ・オオバタチツボスミレ・アオイスミレ・ミヤマスミレ
フイリミヤマスミレ・スミレサイシン・ツボスミレ

★採取標本はないが記録にあるもの～タチツボスミレ・スミレ・アイヌタチツボスミレ・フジスミレ
アギスミレ

「道立自然公園野幌森林公園の植物調査報告書」による。
なお、野幌森林公園での植物採取はしてはいけません。

視点2・地上茎

地上茎無し

茎がなく、葉や花の柄は根元から出る

ミヤマスミレ・アオイスミレ

フイリミヤマスミレ・スミレサイシン・スミレ

地上茎有り

茎があり、葉や花の柄は茎にもつく

オオタチツボスミレ・オオバタチツボスミレ

ツボスミレ・タチツボスミレ・アギスミレ

視点3・托葉



オオタチツボスミレ

托葉は櫛の歯状に裂ける～オオタチツボスミレ
タチツボスミレ



ツボスミレ

托葉は櫛の歯状に裂けない～オオバタチツボ
スミレ・ツボスミレ(ニオイスマミレ)

スマレ 日本人が好んだ花



オオタチツボスマレ

万葉の昔から

万葉仮名「須美礼」で書かれています。漢名にはなく日本独自のもので、万葉の時代からスマレの名は変わっていないと言われています。

万葉集には「春の野に すみれ摘みにと来し吾ぞ 野を懐かしみ一夜ねにける」(山部赤人) スマレ摘みに来て花と野の美しさ、心地よさに野宿をしてしまったよ、という万葉人のおおらかさが歌われています。

平安時代、清少納言の「枕草子」の草の花の段には、アサガオ、キク、ツボスマレの順に書かれています。スマレは好まれていたんです。

松尾芭蕉の「野ざらし紀行」には「山路来て何やらゆかしすみれ草」という有名な句が載っています。「ゆかし」は、心ひかれる・慕わしいの意。山路を歩む静けさの中でスマレに出会い心ひかれたのですね、それとも、山路を歩いてきてスマレに出会い人の香りと暮らしに想いを馳せたのかもしれませんが。

宝ジェヌの歌う「すみれの花咲く頃」は、「春 すみれ咲き 春を告げる」と歌い上げます。スマレは春の花です。春の喜びを歌い上げる歌です。

スマレの名前の起源

牧野富太郎の植物図鑑に「大工が使った墨入れにスマレの花の形が似ているから」と出ています。ところが、異説があります。大工の墨入れがスマレの花の形に似たようになったのは江戸時代頃であろう。スマレは万葉の頃からスマレであったでしょうからすっきりといきません。スマレの花を引っかけて遊んだことに起因する「スモトリバナ」が転訛したという説が一番しっくりすると言うのです。

万葉歌人 山部赤人の「すみれ摘みにと」の考え

934年編纂の分類体漢和字書「和名抄」には、スマレは“野菜類”に入っています。「万葉植物文化誌」には、スマレはルチンという血圧を下げる成分を含んでいる。血圧の薬草として、スマレを摘んだと言うことが述べられています。山部赤人は野菜としての、あるいは薬草としてのスマレ摘みをしたという考えも出来ます。

菫色も日本人が好む色です

菫色は、スマレの花のような鮮やかな青紫です。紫色ではありません。英語では、バイオレット。バイオレットが色名として使われるようになるのは14世紀とされています。ニュートンは「光学」(1704)の中でスペクトルを、バイオレット・インディゴ・ブルー・グリーン・イエロー・オレンジ・レッドの7色に区別して説明したことに始まります。虹の七色を外側から“赤・橙・黄・緑・青・藍・紫”とよんで親しんでいます。ところが、正確に言えば、虹つまり太陽の純粋な光の中には「紫」はありません。紫よりも青色にかたよったバイオレットが限界です。私達は虹の一番内側の色は紫と決めてかかって見ているのかも。

<参考図書：北海道春の花絵とき検索表・根室地方スマレハンドブック・色の名前(角川書店)・摘み草入門(女子栄養大学)・NHK趣味の園芸 2021・3月号>

観察会案内

- 5月23日(日) 恵庭公園観察会 10:00~12:30 恵庭公園中央駐車場集合
- 5月28日(金) 藻岩山登山観察会 9:00~12:30 慈啓会病院前登山口
- 5月30日(日) ワオーの森観察会 10:00~12:00 小樽桂岡春香山登山口
- 6月10日(木) 森の新緑観察会 9:50~11:00 野幌森林公園公園案内所(記念塔口)

文責：春日 順雄

◆事務局だより◆

* 定期総会は、新型コロナウイルス感染症対策から、昨年度に引き続き対面形式での開催を断念し、郵送による対応とさせていただきます。ご理解ご協力に感謝いたします。
～返信用ハガキに添えられたご意見の中から、何点かご紹介させていただきます。

•また野外活動が実施できる日を楽しみに待っています。(K様)

•研修会(養成)の地方での開催がされなくなり久しいことで、地方会員の高齢化は深刻であり、支部の維持と結成は絶望的です。何等かの工夫なくして、札幌以外は崩壊すると思います。(T様) <議事録・再録>

•ボラレン各位様のご健康・活躍をお祈りいたします。(K様)

•コロナ禍の中にあって前向きな活動計画あつぱれ!でも大丈夫かな!?ウイルスとの対峙は怖いですよ。危機を感じたら観察会等を中止する英断が必要かも!!(F様)

•コロナ禍のなか、議案書作成など大変ご苦労様です。(T様)

•日々の活動、コロナ禍もあって難しいなかで、いろいろ新しいアイデアを出しながらの活動ご苦労さんです。こうした状況なので、行事をもう少し縮小してもいいかもしれませんね。(S様)

•自然観察会実施、変異ウイルスの札幌市内の拡大傾向の中、会員・参加者の"命を守る"ことを第一優先した、連絡対応をお願いします。(D様)

* ご意見にもありましたが、会員要件である育成研修会(昨年度は、コロナで中止。)の機会も限られ、訃報等に伴う退会もあって、厳しい状況です。それでも、過年度の修了者から4月に1名の新規入会者(江別市、蔵谷徳洋さん)をお迎えし、心強く思いました。「ホームページ」、「エゾマツ」を中心に、会員の皆さんが心を一つに、ボラレンをもり立てていきましょう。

* 自然観察会などの最新情報は、「ホームページ」で。一斉メールなどもご活用を。

残念ながら、コロナの影響で今季の自然観察会も相次いで中止に追い込まれています。ホームページにおいて、年間計画や掲示板など、随時更新中です。

併せて、情報交換の場として「メーリングリスト」(会員カバー率63%)もご活用ください。

ボラレン・ホームページのURL <http://voluran.com/>

会員間の一斉メール・メーリングリストのアドレス hbrml@freeml.com

◆編集後記◆

* 活動もままならない状況下で、たくさんの玉稿を賜りましたこと、感謝申し上げます。

•地球温暖化か?例年同時期に開催している行事で、セイヨウオオマルハナバチ駆除の時、エゾムラサキツツジが大分散していたり、恵庭公園観察会時見られた「サクラスミレ」が見つかりませんでした。(YT)

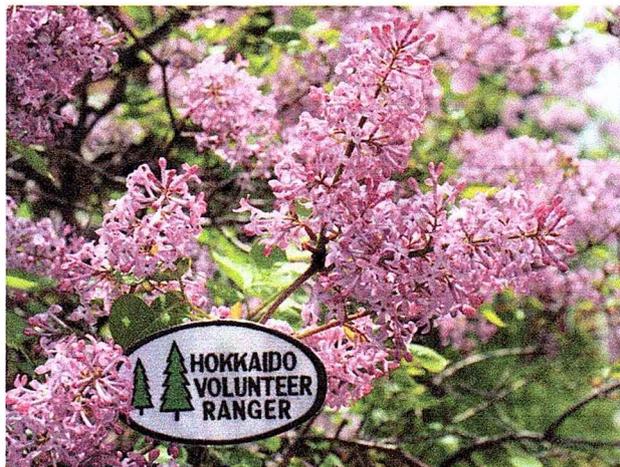
•今年の4月、5月は慌ただしく花々が咲き急いでいるかのように感じられて、焦りまくりの日々でした。

皆様はどのようにかんじられましたか。(KM)

•6月になり、ランの花も咲き出し初夏の装いになってきました。皆様との観察会を楽しみに日々過ごしたいと思います。(KY)

•コロナ収束が見えない状況ですが、今は色々な花が咲き、自然観察には絶好の季節です。前を向いて、毎日を大切に。(MY)

•早春から野鳥の繁殖行動見守り中。ネットで無邪気に情報が拡散され、どっと押し寄せるも、良識とマナーは、どこへやら? 野生鳥獣にも植物たちにも大変なストレスです。一人ひとりの自覚を期待しつつ。(IF)



咲き誇り香るリラ＝ライラックとボラレン・エンブレム

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」2021 夏季号 137

令和3年6月4日 発行

発行責任者：会長 春日 順 雄